

那珂市議会原子力安全対策常任委員会記録

開催日時 令和7年6月20日（金） 午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 小宅 清史 副委員長 花島 進
委員 原田 悠嗣 委員 渡邊 勝巳
委員 萩谷 俊行 委員 笹島 猛

欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 木野 広宣 事務局長 会沢 義範
次長 萩野谷智通 次長補佐 岡本奈織美

会議に付した事件

- (1) 市民の皆さまの声を聴く会についての振り返りについて
…各意見の対応について協議
- (2) その他

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 おはようございます。

常任委員会が連日続いておりまして、各委員会、白熱した議論が繰り広げられているようでございますけれども、常任委員会最後になります、原子力安全対策常任委員会のほうも今日、皆さんの活発なご意見を頂ければというふうに思います。

それでは、開会前にご連絡いたします。

本日は換気のため廊下のドアを開放して常任委員会を行います。

ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。会議は公開しており傍聴可能いたします。

また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送いたします。会議内での発言は必ず、必ずマイクを使用し、質疑答弁の際は簡潔かつ明瞭にお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は電源をお切り頂きますようお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名でございます。欠席委員はおりません。

定足数に達しておりますのでこれより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

職務のため議長及び議会事務局職員が出席しております。

ここで議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 改めましておはようございます。

今日が常任委員会最終日になります。また執行部の案件はございませんので、今回は市民の皆さまの声を聴く会の振り返りについてということ、またその他の2件でございますので、小宅委員長の下、慎重な審議を賜りますようお願い申し上げ、挨拶と

させていただきます。よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

本委員会の会議事件はサイドブックに掲載されている会議次第のとおりであります。

これより議事に入ります。

(1) 市民の皆様の声を聴く会についての振り返りについてを議題といたします。

5月18日に市民の皆さまの声を聴く会を実施いたしましたので、振り返りを行いたいと思います。委員の皆様のご感想やご意見をよろしくお願いいたします。

副委員長 最初は参加人数が少ないみたいだったんですけど、いろいろ声かけていただいたりして増えて、そこそこの人数になってよかったと思います。

ただ、賛成論が1人しかいなかったですね。原発に対する。しかも、あんまり知らない方だったと、いろんなことをね。そういう感じですね。あとは、いろんな意見あって、中でも住民投票っていう声があったんだけど、なかなか住民投票までは、考えたくないなって正直、みんながちゃんと市民が考えて住民投票って機運がもっと高まれば別ですけど、今の段階では我々から住民投票を提案するっていうのは何か、機運は盛り上がってないし、それでよい結果が出るっていうふうにはなかなか考えつかないと思ってます。

それよりも我々なり、議会内でしっかり考えて、何か提案なり意見を言っていくほうが、いいんじゃないかなと思いました。

あといろんな意見あったんだけど大体言ってることはごもっともな話が多いなと思いました。問題はメリットとデメリットの関係なんで、僕自身の考えですけどね、単純に絶対駄目とか、絶対にいいとかじゃない問題だと思っているので、なかなか難しい問題だと思います。

以上です。

委員長 ほかにご意見ございますか。

渡邊委員 今回の副委員長がおっしゃったように、多くの方来ていただいて、ただやっぱり賛成の方が非常に少なかったなという印象はありました。

私もいろいろ前の職種、行政にいたときに説明会を開催すると、大概賛成の方いらっしやらないというのがほとんどなんです。

要は意見があるから来るんであって、それに同調されてる方、同意される方は余り来ないっていうのが、今までやってきた経緯ですので、それを考えると当然のことなのかなっていう感覚はあります。

あと、頂いた意見のほうなんですけどやはり反対の意見いっぱいあったんですが、どちらかというとなんか、ご意見として聞くのがほとんどだったのかな。

意見として承る程度のものしかない、答えが出せるものではないっていうような感じが多く感じました。

その中でもちょっと本当なのかなと思って聞いていたのが、要は、ロシアの攻撃目標になってるよとかっていうところ、160か所が狙われてるってじゃその根拠ってどこにあるんだろうなっていうのが、何をもとにこの数字が出てきてるのかがちょっと分からない、変な話ロシアが公開するわけないんで、あくまでも推測でしかないのかなとは思ってはいるんです。

また、東京都の太陽光発電、確かに個人の家に太陽光発電をするという一つの方法だと思います。

ただ学校になぜやらないんだっていう話がちょっとあったのかと思うんですけども、実際やってるところあります。できないところは構造上出来ないところなので、これはちょっと説明なり何なりうちのほうでもPRが必要なのかなというふうに感じました。

原発の問題について中立的な意見があった人がいたのかなと思うんでちょっとうろ覚えなんですけども、要はきちんともっと勉強してほしいよ。そういう委員会に要望があったかと思います。

その辺をまず、あった、ごめんなさい。先行事例などをよく見てもらって、その知見とか経験値など、議会の皆様議会が中心となって勉強していくのが必要だというような形の意見も頂きましたので、やっぱり真摯に受け止めて我々委員会のほうでもきちんともっと知識を高めて進めていくべきだなというふうには感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

ほかございますか。

笹島委員 今回も思ったんですけど、毎回毎回反対の人が9割以上かな。ぼつんと賛成派。我々はねフィフティーフィフティーとは言わないけども、六四、七三ぐらいでね、やっぱりそういう人たちの、もちろん知識とか経験がなくて結構なんですよ。素直に自分の分かる範囲でね、これ本当に特殊なあれなんでなかなか一般の市民参加できないと思うんですよ。ある程度来られる方はかじった方っていうかお仕事でやってた方でそれは知ってるの当たり前であってさ、それ以外の方。前はどこでしたっけ、PTAなんかの方でね。10人ぐらい来て、たった1人ぐらいかな、その人もやはり、仕事から原子力関係の人でしょう。

これ、こんなこと毎回毎回同じことやっててもいいのかなと思って、何の原子力のほうにメリットがあるのかっていう、そろそろ止めてもいいんじゃないかって同じこと繰り返してる気がするんですよ。

片や、日本原電は2,400億円も使ってね、肅々ともう進めてますもんね、全くアンバランスなんでね。

我々が小さな吠え方してても、全く耳に届かず、声が届かずと全く反比例してるんですけど。どのようにして報告していくかっていうことを少し考えてもいいんじゃない

ないかなって思うようになりました。

以上です。

委員長 貴重なご意見だと思います。

そういった考え方も当然あるかと思いますが、今後、意見を聴く会の在り方そのものに対しても委員会として話し合っていく必要もあるのかなと。

そしてこの間の4事業者説明会の中で、2027年には稼働させたいというような、原電のお話もありましたので、そろそろですね、ちょっと現実的な話もうちょっと委員会の中でしていく必要もあるのかなと。

そして私たちの委員会も残り半年の任期になりますので、そろそろですねこのやってきたこの1年半、そして残り半年の部分のまとめ作業といいますか、執行部にこういう提言をしていくべきだとかそういったことをしていかなきゃいけないなというふうに思いますので、そういったことも含めて意見を今まで聞いてきた意見も含めて、そういったものの集約、集積集約ですかね、作業にこれから入ってくるのかなというふうに思います。

ありがとうございます。

ほかございますか。

原田委員 声を聴く会に関しては、いろいろな考えとか意見とか聞けて良かったなと思うんですけど、今小宅委員長おっしゃったとおり、2027年にもう工事とか終わってやりたいっていうのが話しだったと思うんで、もうちょっとこう、実質ですね那珂市がどういうふうに判断をしようとしているのかっていうのを、ちょっと執行部にも確認したいなと思って。この間一般質問で副委員長やられて、答え返ってきましたけどいまいち具体性がないかなと思うんで、その辺何か委員会として、執行部にこれからどういうふうに決断を下そうと考えているのかとかは、なんですかね、一緒に話しながら詰めていったりとかできればなというふうに思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

ほかございますか。

副委員長 二つ、一つは渡邊委員がおっしゃった賛成派がほとんど来づらいっていうかね。

ただ今までもそうだったかってそうでもないんですよ。実際に動員されて来たこともあるんですよ。何人か、容認派が。動員されたって知ったのはなんでかっていうと、別の機会に、そういうふうな人に会ったっていう話を私聞いた。参加したんだけど、その動員されて来た方と仲間だと思われて話しかけられたっていう例があるんです。だから今回全然、そういうなんていうのか容認派の動員という言い方だと無理やりって感じですけど、声かけみたいなもの含めてですが、なかったっていうのは意外でした。

ただ原子力に関していえば考えてない人が結構いるんですよ。具体的に考えてな

いって。だから、考えてないと、反対にはならない可能性もあるし、考えなくて反対もいるけど、あんまり参加しにくい。一方で考えると本気で考えると反対になるんですよ、だいたい。そういうところがある側面があるから、容認派が来づらいのかなと思いますね。

それから、原田委員の意見ですけど、執行部としては、今の段階で賛成とか反対とか言いづらいんですよ。前の市長のときに反対をはっきり言ったら、結構大変だったみたい。彼は公にはいいませんが脅しみたいのがきたみたいなんですよ。だから、どうすんだどうすんだって言うよりは、むしろ我々が考えて、どういう方向で我々は考えるということを提起したほうが、まとも、健全っていうか、いいかなと思ってます。そういう意味では勉強をして、我々の勉強も含めてっていうのは大事なことです。

ただ笹島委員も同じこと繰り返してもしょうがないっていうおっしゃいますが、気持ちは分かってはいるんですけど、でも市政のほかのこと何度も同じこと市民に聴いてますよね。道路がどうだとか、給食費がどうだも含めて何度も聞いてるんで、これ1回なり2回の市民の声を聴く会で決断するとかいうことではないと僕は思ってるんで、市民の声を聴いていくっていうのが、まどろっこしいようだけど大事なかなと思ってます。

セフル変化もありますよね。福島事故の直後というのはほとんど反対の声しかなかったけど、今は容認の声も増えてますから、その点私としては、ちゃんと受け止めながら、議会の判断、私自身は反対ですからね、明確に。だけど反対だから反対の声だけ聴けばいいと思っているわけではなくてちゃんと判断の中で、僕自身としては多くの人が賛成だっていっても僕は反対だから反対します。でも聞いた中で態度を決めていくということが大事だと思っています。

委員長 ありがとうございます。

渡邊委員 私ちょっと副委員長と同じような考えでして、ちょっと笹島委員が先ほど言った何回も、確かに分かると思うんですけども、同じこと繰り返してもってですがやはり、行政の立場だったんで、説明会も何度もやったほうがいいよという意見もあるわけですから、そうなってくると、同じように意見を聴く機会も何回もあってもいいのかなというふうには思います。

問題はやっぱりそういう意見の聞き方なのかなと思うんです。確かにね、普通に公募しても人が集まらないってなってくると、そこを今回いろんなやり方を変えてPTAの方に聞いたりとか、やってみたんですけど人が結局集まらなかったのは事実なんですけど、やはりそういうふだん集まってくれない方々の話を聞く、もしも集まってくれなかったらこっちから出向いていくということをして、やはり市民の声をもっと広く聴くべきなのかなっていう一つ感じます。

あと、先ほどの話も先ほど副委員長がおっしゃったんですけどその住民投票などを

するべきと考えてないって話ですけど、確かに議会主導でやるべきではないと思います。そしたら議会の意味がなくなってしまうので。ただ、住民の方々が本当に反対しているならば、むしろ住民の方々が率先して、できないわけじゃないですから、きちんとしたルールがあるんだから、それを使ってもらって、住民投票へ仕向けることは可能なかなと思いますので、その辺をもっと、住民の方に理解させるような、PRするような、そういう制度もあるんだよとも含めて、いろんなやり方をとっていく必要があるのかな、ちょっと漠然としてまとまらない話だとちょっと申し上げるんですけども、ちょっとそういうのを今感じるところです。

笹島委員 何だかんだ言って、恩恵を受けているのは東海村だよ。原子力立地だよね。東海村長が今度の9月の村長選に向けて容認しましよ。

あそこは複雑ですよ。要するに利害関係があるそういう企業で働いている原子力関係、下請け云々の日製関係、それから普通の住民の方って三つ分かれてるから、ほとんどの方、もう、半分以上の方がそういう関係してて、原子力関係の交付金をもらっていると。全く我々と違うよね。我々何も恩恵受けてないんだよね。

（「原子力立地給付金」と呼ぶ声あり）

笹島委員 大した事ない、あれは本当にあんなの微々たるもん、分かるでしょう。1家庭1万円から1万2、3千円くらいじゃないですか。もらえないの。俺だけだ、よく使っているからうちは電力をね。家の規模が違うからどうしてもね、その話はいいいや。

そういうわけで、そういう恩恵を受けてるわけですよ。それで、今言った地方交付税もらってないって毎回東海村じゃないですかね。たまに守谷市とかひたちなか市って言ったけど、ひたちなか市と那珂市と常陸太田市と、どこだもう一つは、日立市か近隣のあれ、水戸市かな、そういうあれでね。じゃあ首長たちの意見はどうだっていうと、どうなんですか、はっきりしてるんですかそれともものりくりしているんですか。でしょ。

我々はもうこういうふうにして、はっきり反対派、賛成派って分かれたりしているけど、トップがそういうふうにして首長懇話会でこれからやっていかなきゃそれ言うこと聞くのは日本原電が言うこと聞くのは首長懇話会のそのまとまった話しか言うこと聞かないんですよ。我々が今言っていた、反対賛成として言っても、それが那珂市の首長の方に伝わるようにしなくちゃいけないんですか、それは、ですよ。だから、首長のほうもどういうふうに、反対賛成の有無も言ってませんよね。だから我々だけが盛り上がっているんですけど、どうですかこの温度差っていうのは。

委員長 さっきの話から戻りますけれども笹島委員がおっしゃってる市民の意見を聴く会っていうのは、やってもしょうがないというのは恐らく先ほどおっしゃったところ僕なりに聞くのは、その人数が半分ぐらいの賛成反対ぐらいの形で聞ければいいんだけどそうじゃないからっていうことなんだと思うんですね。

それで住民投票が市民のほうからおければそれも議会も対応、もちろん、住民投票

は条例じゃないとできないので、住民投票条例を議会で可決しなきゃいけない、過半数の賛成がなければ可決できませんので、そういうこともあるかと思うんですけども、結局やっぱりそこまで、住民住民のディベートとか、住民投票とかやってしまうと、やっぱり市民が分断してしまうっていうことはあるんですよ。

議員同士のディベートっていうのは結構皆さんいつもやってることだからあれなんですけど市民同士のそういうふうになると、なかなか市が分断してしまうということもあるので、私は先ほど笹島委員もおっしゃってた、稼働再稼働に関する可否っていうのは政治判断でしないと、私たち議員と市長とですね、いけないんじゃないかなというふうには、感じております。まだこれから話ですけれどもね。

笹島委員 住民投票は絶対やっちゃいけないですね。

本当に分断してるって言って、恩恵もメリットも受けてないところに、ただ単に感情的になってね、隣同士がこれになるような絶対やっちゃいけないですね、私、大反対それは。

副委員長 笹島委員の質問というか疑問で、6市村の協定、あれは協定の中身では、要するに、1市でも反対すればとおらないんですよ。ただみんなの相談の中でどっかの市が1人だけ頑張って駄目駄目って言い続けるかどうかは別問題です。

今のところ、雰囲気的には水戸市が結構反対の雰囲気ですよ。水戸市長は。まさに逆ですけど、メリットほとんどないのに何でこんなリスク救わなきゃいけない。

あと東海村がリスクないかって全然そうじゃなくて、福島みたいな事故が起きたら真っ先にほとんどめちゃくちゃになるの東海村ですよ。だからある意味で、ギャンブルやってるんですよ。そういうふうに考えていったほうがいいと思います。ちょっと違う種ですね、10に1とかのギャンブルではなく、もっとちょっと低いギャンブルと私思ったんですけど。

委員長 ほかが意見ございますか。

萩谷委員 皆さんの意見を聞いてごもっともだという話ばかりですけどね。

委員会の今後の、逆にこういうことによって、在り方っていうかこの委員会で問われるような気がしますよね。

だから委員長が言ったような形とか、いろんなことがあると思いますが、やっぱりさっき笹島委員が住民投票、大反対だと言いましたよね。確かに争いごとっていうか、市民間でね、起きるかなと私も思います。

でも、何かこう原子力安全対策常任委員会の存在感が少しね、薄いなど、どういう方向で、委員会としてやっていくのかっていうのを、何か特に問われそうな、今回は再稼働についてそんな気がします。

何とも言葉ではね、表現しづらいですけど、そういう感じがしますね。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

ほかどうですかね、この前の市民の声を聴く会のお話を受けての話でもいいですし、今後今萩谷委員からありましたように、残り半年ですね、この委員会で何を示していくか、ある程度の形をどういうふうにつくっていくかというようなご意見でも構いません。

副委員長 ちょっと私、よく覚えてないんですが、この委員会になって勉強会みたいな、何と何やりましたっけ、このメンバーになってから。

（複数の発言あり）

副委員長 すみません。

何かもうちょっと何ていうか、しっかりしたって変な言い方ですけど、ちゃんとしたロジックがある方でもう1回やってもらえますか。

委員長 今副委員長から勉強会をというようなお話がありました。

どうですかね、勉強会、どういった講師を呼んでほしいというご希望があれば、なるべくそういう意見があれば添えるような形で。

笹島委員 なんか賛成する人をちょっと呼んでほしいな。

委員長 推進派ってことですか。

笹島委員 反対派は飽きたから、ごめんね。

委員長 推進派の方を呼んでほしいというのがありました。これはやっぱりバランス必要ですので、どっちか呼んだらどっちか、どっちか呼んだらどっちかっていう形は当然なるかと思うんですけれども、そういった意見がありました。

どうですかそれに対しては。どっちもってことですね、はい。

副委員長 賛成です。

どっちかっていうと望むところですね。ただですね、推進派の方で、まともに話せる人はあんまりいないんですよ。皆さんの中でこの人がいいんじゃないかって推薦していただけたら、委員長、副委員長で選ぶ。人選が楽になる。

笹島委員 近所の人。

副委員長 今おっしゃったのは山下氏ですね。昔の私の部長です。いいんですけどね。

委員長 それはちょっと委員長、副委員長のほうでちょっと人選のほうは任せていただく形でよろしいですかね。

（「賛成」と呼ぶ声あり）

委員長 それでちょっと勉強会のほうをやっていくという形で。

ということであとですね、出たご意見が公表されないというようなご意見があったかと思うんですね。ですのでこれもこないだ出た意見のまとめありますけれども、これに対してこれをホームページで公開するというような形も考えたいと思うんですけれども、どのような公開の仕方がよろしいのでしょうか。全文このまま公開するか。それとも一部公開にするのか。どのようにしたらよろしいですかね。

副委員長 議会の広報だと紙面の制約とかがかなり厳しいので、全部載せるってのは多分

無理だと思うんですけど、ホームページだったらこういう意見がありましたって全部出しちゃって構わないと思いますね。

ただ中に事実関係がはっきりしないものをどうするか問題があります。先ほど話した160か所の攻撃目標とかね、攻撃目標になっているだろうってことは推測できるんですよ。簡単にダメージ与えられますからね。それでもそれ以外は出た意見として載せてもいいのかなと思います。

あと安全対策費は一基あたり7千億円っていうのは、どうも勘違いみたいなんで、今度東海第二は2千何百億円って言ったし、あと、今度視察の対象になってる女川原発の1基当たりの金額は7千億円にはなってなかったと思います。

委員長 そういうふうに先ほどミサイル攻撃の件とかその金額の話はそうなんですけど、出どころがはっきりしない情報を載せてしまうと結局検索をかけたときにここが引っかかってしまったりしたときに問題が起きるわけなんですよ。那珂市のホームページにはこう出たと。その辺を考えるとちょっと事実がはっきりしないものは削除していんじゃないかなと思うんですが、いかがですかね。

笹島委員 はっきりしないものは削除したほうがいいですよ。やっぱり市議会を守るためにもね、よろしくお願いいたします。

委員長 そうですね、出た意見として出しながらも一部その事実と事実関係がはっきりしないものは載せておりませんという形でよろしいですかね、そういう形で。

（「賛成」と呼ぶ声あり）

委員長 それでは委員長副委員長で1回まとめますので、それを皆さんに見ていただいて、それから、載せるという形で対応したいと思います。

笹島委員 疑わしきものは削除した方がいいですよ。

委員長 ではですね、1月までに先ほど言いましたようにこの委員会での見解というかそういうまとめをしていかなきゃいけないので、またですね全員協議会でも報告しなければいけないと思いますので、そういったことも含めまして、よろしくお願いいたします。

続きまして、（2）その他を議題といたします。

その他でございますが、もうこれ勉強会やるからいいですよ。

その他何か皆さんからご意見あれば、ここでお伺いしますが、よろしいですか。

では、本日の議案は全て終了いたしました。

以上で原子力安全対策常任委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会（午前10時31分）

令和7年7月25日

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会委員長 小宅 清史